



“さくらの会”便り

発行責任者	会 長	山本 静子
編集責任者	事務局 長	上原 栄
Tel.0773-22-7859		

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー

明けましておめでとうございます

会長 山本静子

新年あけましておめでとうございます。

日頃はさくらの会にご支援・ご協力を頂き、ありがとうございます。

去年は、皆様のご協力のおかげで3回の交流会を行う事が出来ました。

リラックス出来て、励まし合えるところ、勇気を与えられるところを、家族会

のモットーにして、楽しい交流会が出来ます様、よろしく願いいたします。



京都の講習会に5名が参加

【第28回脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会】に参加された水谷剛志さんからの報告と感想です。

前半は山口先生が 課題や法的仕組みを

2024年11月17日（日）に京都市左京区の【京都府立 京都学・歴彩館】において脳卒中や交通事故の後遺症である《高次脳機能障害》の理解を広げる事を目指し開催された。

今回は、5年振りの『対面形式』に加えオンラインを併用しての開催であった。

参加者は、会場には約90名、オンラインでは約40名の計約130名の参加があった。

前半・後半の《2部構成》で行われ、《前半》は、日本高次脳機能障害友の会で

顧問を務める山口加代子先生が『見た目に分かりづらく、また「自分の障害に気付かない事自体が高次脳機能障害」とも言える特性から、見過ごされがちになっている課題』に言及し、『軽症例を含めた適切な診断で、本人・家族が理解でき、必要な支援に繋ぐ仕組みづくりに向けて高次脳機能障害支援法が必要である』と話された。

《後半》は、今回のテーマである【当事者・家族とともに高次脳機能障害の理解をひろげよう】に基づくシンポジウムで、

後半は シンポジウム

当事者の《障害を負ってから現在に至るまでの体験》と家族の《子供が障害を負ったからの家族としての役割などの体験談》が話され、会場とオンライン参加者に対してそれぞれの立場から、メッセージを贈った。

今年から高橋さんに代わり【当事者委員】として、実行委員会に参加しています。

感想 より多くの情報発信を

水谷剛志さん

色々な立場の方との交流などもこれから増えてくる感じがします。

大きなプラス要素なので、より多くの方に情報発信が出来れば良いなあ～と感じました。

今後も講習会や勉強会等が増えてくると思うので、《当事者・家族・支援者（関係者）》が【繋がる】事の大事さを基に、情報などの橋渡しが出来れば良いなあ～と思いました。



感想 前頭葉の働きの謎

坂本由美さん

11月のリハ講習会に参加して、特に印象に残った事は、前頭葉の障害は検査では現れないという話でした。検査で分からないなら、どうしたらいいの？というのが正直な気持ちです。

前頭葉障害で現れる社会的問題行動が、特に気になるし、他人とのコミュニケーションで上手くいかない大きな要因でもあります。

前頭葉がどういう働きがあるかをもっと勉強しなければと思いました。

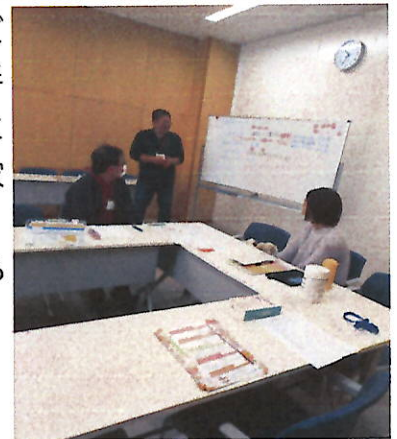
第3回交流会

第3回交流会が、11月24日（日）に綾部市民センターで開かれました。



午前中は、水谷さんの【第28回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会】の報告を聞きました。午後からは、当事者・家族が分かれて交流しました。当事者の

交流では、ゲームを持ってきたが出来なかった。今後の運営について、問題が残った。家族では、さくらの会の会計について、各行事ごとに会計を手分けすることになった。家族の交流会も、不足感が残る交流会でした。



感想

高倉涼子さん

当事者と家族に分かれての交流会では、家族同士では意見や情報交換も無く、残念な交流会でした。当事者同士はいかがでしたか？

テーマを決めて話し合うのもありかなあと思いました。

坂本さんが用意していただいた食後のコーヒー、紅茶、リラックス出来てとても美味しかったです。

私たちにできること



公開講座で後藤さんが発表

北部地域で移動手段に困らないために～私たちにできること～と題して 12月8日(日)京都府作業療法士会(北部圏域運営委員会)主催の公開講座が開かれました。

宮津シーサイドマートミップルで開催され、「さくらの会」からは3名が参加しました。

佛教大学作業療法学科の奥野隆司先生の、自動車運転を続けている方に、これからも安全に運転を続けるためのポイントと免許の返納を考えている方への、運転について改めて考えるきっかけの講演がありました。



また「生の声」を届ける脳出血の当事者(「さくらの会」の後藤さん)と作業療法士(丹後中央病院・綾部市民病院の作業療

法士)の座談会がありました。

脳出血を発症後、自動車運転の再開を希望し、病院での支援を受けて運転の再開されるまでの道のりや思い、支援内容について話されました。



綾部市立病院
古川恵美さん

「運転している人も運転していない人も北部地域で移動手段に困らないために私たちにできること」の開催を終えて。

今回の市民公開講座では、「生の声を届ける」をテーマに、脳出血の当事者と作業療法士による講演をメインプログラムとして開催しました。

さくらの会・会員の後藤さんにご登壇いただき、脳出血を発症し、入院中に自動車運転支援を受けた経験から現在に至るまでのエピソードを語っていただきました。

このような試みは初めてで、私たちも緊張していましたが、結果は大成功でした。来場者アンケートでは非常に高い満足度が得られ、以下のような感想が寄せられました。

アンケートの声

- ・「当事者の生の声を直接聞くことができ、良かった」
- ・「疾患を抱えると運転は難しいイメージがあったが、評価や相談ができる機関があることを知り、他者に紹介できると思った」
- ・「将来自分が同じ立場になった際、どんな選択肢があるのかを考えるきっかけになった」

当事者と専門職が共に発信する意義の大きさを実感した機会となり、今後は中丹地域でも同様の開催を目指したいと考えています。後藤さん、素晴らしい講演をありがとうございました！

大槻節子さん

感想

座談会を聞いて、発症前の後藤さんは、さくらの会でいつも逢っている感じでは想像がつかないアクティブな方でした。後藤さんに感動しました。昔のコマーシャルで「やる気と根気のイッキのセレット」を思い出しました。やる気と根気は大事ですね。

専門職の方に感謝です。

「新春交流会」は 3月9日(日)



日時：令和7年3月9日(日)午前10時～15時

場所：「綾岨バラ園」綾部市物部町

午前中は交流会

午後は昼食後、綾岨フレンズ

(丸田さん夫妻)の歌と演奏、

詳細は後日送付

雑感

● さくらの会の当事者の方の、二人の発表を聞きました。当事者の努力もすごいです、専門職の応援も凄いなと思いました。本人が前向きになるために、家族は？・・・家族はどうしたらいいのか・・・心の中が揺れ動きました。

● 北部地域で移動手段に困らないため安全に運転を続けるためのポイントを聞きました。良く分かりました。

白内障の手術をしてから、夜の運転をしていませんでしたが、宮津の講演を終えたのが5時。外はみぞれ交じりの雨。走りなれない道の運転は怖かった。ゆっくり運転のためバックミラーをみると5台は続いている。道路脇に寄って譲っては、家路に帰りました。後期高齢者の私は、夜の運転は絶対しないと！

上原保子

【編集後記】

▼「夏は暑かった。」と言っていたがアツと言う間に冬。雪が降る。時が過ぎるのが速い。何に追われているのか!!

▼寒い日が続くのでコタツとストーブで暖をとっている。電気代は上がったわ。たわ灯油代も大幅値上げ。でも寒さには勝てないのを利用してないわけにはいかない!!他の経費を節約してなんとかやっていると、入ってくるお金は決まっている。財布の中は木枯らしが吹いている

▼一月一〇金曜雪、朝七時に車でどうしても出かたなければいけない。走ってたら車が横滑り!

▼今年はずっと余裕を持って事故無く穏やかにやっていきたいのだけど、どうなるか (Y)